

令和元年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

| | |
|-----|--|
| 名 称 | SSR I・SSRA クリティカルシンキングトレーニング (CTT) |
| 期 日 | 令和元年5月の3時間 |
| 対 象 | 1年生全員 (普通科6クラス・理数科2クラス) |
| 目 的 | ・論理的思考力・批判的思考力を養うことをとおして、課題研究を深化させるための基礎的技能と反論の書き方を身につける。 |
| 内 容 | 1回目の授業：「反論の訓練～基礎練習・型の習得」(1) ——「課題文を読んで主張と根拠を確認する」 2回目の授業：「反論の訓練～基礎練習・型の習得」(2) ——反論を考える (構想メモ)、型の提示と一次草案の作成 3回目の授業：「反論の訓練～基礎練習・型の習得」(3) ——お互いの一次草案について、ICEモデルを用いて相互評価・意見交換する。一次草案を推敲し、清書原稿の作成・提出 |
| 教材 | 教材・資料としては、以下の条件を満たすものを提示する。 (1) 主張が明快である。 (2) 主張を支える根拠が明確に示されている。 (3) ディベートの論題のように短いものではなく、ある程度の長さをもっている。 (4) 論じるのに、高度すぎる特殊な専門的な知識を必要としない。 (5) 生徒の現在の生活から遊離したものではない。 (6) 読み手を刺激するような文体で書かれている。 |



CTT の概略と流れを説明



他の人の一次草稿を班内で回し読み



ICE モデルで相互評価

推敲・清書

評 価

ICEモデルを活用したルーブリックを用いて生徒間での相互評価を行った。

| 自己評価 | | | |
|------|-------------------------|---------------------------------|--------------------------------------|
| 観点 | I：考え (Ideas) | C：つながり (Connections) | E：応用 (Extensions) |
| 読解 | ①筆者（大鐘氏）の主張が書かれている。 | ②筆者（大鐘氏）の主張の根拠が書かれている。 | ③筆者（大鐘氏）の主張と根拠が、接続語を使って論理的にまとめられている。 |
| 反論 | ④指定された形式で文章が書かれている。 | ⑥3つめの反論が述べられている。 | ⑧反論の根拠が、自分で調べた他の資料や論などを用いて書かれている。 |
| | ⑤1つめの反論と2つめの反論が述べられている。 | ⑦反論の根拠が、課題文に書かれていることを用いて示されている。 | |
| 文章表現 | ⑨正しい原稿用紙の使い方で書かれている。 | ⑪語句の使い方が適切で、文意が通じないところがない。 | |
| | ⑩誤字・脱字やら抜き言葉がない。 | | |

感想など

【他者評価】

- ・反論の根拠が詳しく書いてあって、なるほどと納得しました。
- ・時代による告知の考え方の違いがわかりやすく書いてあった。
- ・自分が学んだことや体験を結びつけて書いてあったので、説得力があった。

【自己評価】

- ・反論を3つの論点を書くのが、題材が思い浮かばず大変でした。
- ・自分なりの意見を盛り込もうとしすぎ、字数のバランスがよくなかった。
- ・文章に凝りすぎて、論点が不明確になってしまった。